

遊休クルマエビ養殖池を活用した アサリ増養殖技術の開発



アサリの稚貝

山口県水産研究センター内海研究部では、アサリ資源を復活させるため、2011年から当センターが中心となり、独立行政法人水産大学校や民間企業と協力し、遊休クルマエビ養殖池（5千 m^2 ）を活用したアサリ生産の研究を進めてきました。

このたび、2012年3月に当該養殖池へ入れた2mmサイズのアサリ人工種苗300万個を11か月で25mmサイズに成育させることができました。



アサリの移植(2012年3月23日)

2012年3月に山口市秋穂の築堤式クルマエビ養殖池(旭水産有限会社所有、5千 m^2)へ2mmサイズの人工種苗300万個を收容し、定期的に肥料を加えて餌となる植物プランクトンをふやしながら養殖しました。

2013年2月現在、アサリは、25mmサイズで240万個、総重量6トンに達しているものと推定され、可能な限り全量を取り上げて、県内のアサリ漁場に放流します。

広大な養殖池で、ふ化から満1年で殻長30mm以上のアサリを生産する養殖技術開発が目標です。



噴射式回収機によるアサリの収穫(2013年2月19日)

◎遊休クルマエビ養殖池を活用したアサリ増養殖技術の開発

＜内海研究部栽培増殖グループ 岸岡正伸＞

◎研究紹介

◇山口県日本海産頭足類目録を作成＜外海研究部海洋資源グループ 河野光久＞

◇粟野川でサケの稚魚が確認されました

＜内海研究部栽培増殖グループ 畑間俊弘＞

◎平成25年度新規試験研究の紹介（企画情報室）

◎トピックス（企画情報室）

◇「キジハタの栽培漁業推進に関する研究」の業績で

平成24年度全国水産試験場長会会長賞を受賞しました

◇山口県水産研究センター研究発表会を開催しました

山口県日本海産頭足類目録を作成

水産研究センターでは、萩博物館及び下関市立しものせき水族館（海響館）と共同で、山口県日本海域の頭足類（いか・たこ類）の出現状況を明らかにするため、既往の文献や未発表資料を整理して、「山口県日本海産頭足類目録」を作成しました。

（海鳴りネットワークHP <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/kenseika.html>に掲載）

これまで本海域に何種類の頭足類が生息しているのか不明でしたが、今回、3機関の共同研究により本海域で確認された頭足類が3目12科51種におよぶことが初めて明らかになりました。本目録ではユウレイイカやヨツメダコ（下図）などの珍種を含む多くの種についてカラー写真を掲載しましたので、ぜひ上記ホームページを御覧ください。また、当センターでは頭足類の出現情報を継続して収集していますので、珍しい頭足類を見つけた際には、水産研究センター（TEL 0837-26-0711）まで御一報ください。



左図:ユウレイイカ（外套長199mm、2012年10月12日、萩市見島北西沖で採捕）

右図:ヨツメダコ（外套長不明、2007年4月6日、下関市蓋井島地先で確認）

粟野川でサケの稚魚が確認されました

水産研究センターは、県内各河川の魚類、エビ・カニ等の生息状況を平成12年から調査していますが、このたび、粟野川で海に下る直前のサケ（シロザケ）稚魚を確認しました。産卵のため、サケの親が粟野川を上ることは平成19年度以来、毎年の調査で確認していましたが、稚魚の生息はこれまで知られていませんでした。

この発見により、粟野川は海から上ったサケが産卵し、生まれ育った稚魚が海へ帰っていくサケの故郷であることがわかりました。

粟野川のサケは本州のサケ分布の西限であり、貴重な個体群です。これからもサケが毎年帰って来られるように河川環境保全の一助となるよう研究を進めていきたいと思っております。



写真 粟野川で採捕したサケ稚魚

平成25年度新規試験研究の紹介

水産研究センターが平成25年度から新たに取り組む試験研究を紹介します。

○やまぐちブランド育成研究開発

味や品質に優れ全国に誇れる「やまぐちブランド」を育成するため、水産物の鮮度保持により高付加価値化を目指す技術※を生産現場と連携して開発します。

※神経締め等による魚種毎の鮮度保持技術の開発、旬の時期が簡易にわかる分析方法の開発等



ケンサキイカの神経締め



マアジの脂肪量測定

○漁場形成予測技術開発

漁業経営の効率化を支援するため、海水温の上昇等により不安定となっている日本海の漁場形成要因を分析し、漁場形成を予測するシステム開発に取り組みます。

[対象とする魚種] マアジ、いわし類、ケンサキイカ



マアジの水揚げ



漁業調査船くろしお

○カイガラアマノリ生産技術開発

山口県が全国で初めて養殖技術を開発したカイガラアマノリについて、養殖技術の普及や更なる生産拡大に向けた新たな大量生産技術の開発に取り組みます。



カイガラアマノリ



カイガラアマノリ養殖

「キジハタの栽培漁業推進に関する研究」の業績で 平成24年度全国水産試験場長会会長賞を受賞しました。

当センターの南部智秀専門研究員が長年取り組んできたキジハタ種苗生産・放流技術開発の業績が、キジハタ栽培漁業の推進と地域水産業の振興に大きく貢献するとして、2012年11月21日(水)和歌山県串本町で開催されました全国水産試験場長会全国大会で会長賞を受賞しました。

大会では、表彰式が行われるとともに、受賞記念講演を行いました。



受賞した南部専門研究員



受賞記念講演

山口県水産研究センター研究発表会を開催しました。

2013年2月16日(土)周南総合庁舎さくらホールにて、平成24年度水産研究センター研究発表会を開催しました。

日頃の研究成果として、瀬戸内海的环境変化、キジハタの再放流、クルマエビ養殖池でアサリ種苗を大量生産する方法等、6題について発表しました。

当日は漁業関係者を始めとする約70人の参加者がありました。

<研究発表タイトル>

- ①40年にわたる海洋観測から見えてくる瀬戸内海的环境変化
- ②再放流に効果あり！～大きく育てよう山口のキジハタ
- ③建網のかぶりつき被害、犯人は誰？～歯型からの検証～
- ④遊休クルマエビ養殖池でアサリ種苗を大量生産
- ⑤まがいフグ(中間種フグ)を海に戻さないで！
- ⑥キジハタのエア抜き技術とその効果

